

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

## 研究進捗状況報告書の概要

### 1 研究プロジェクト

学校法人名	早稲田大学	大学名	早稲田大学
研究プロジェクト名	近代日本の人文学と東アジア文化圏－東アジアにおける人文学の危機と再生		
研究観点	研究拠点を形成する研究		

### 2 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

日中、日韓の関係は半世紀のタイムスパンでも最悪と言われる。その状況下で相互信頼の精神的基盤として人文学に寄せられる期待は大きい。日中、日韓の軋轢の基底には近代日本が構築した国民主義的歴史学があり、中国、韓国の歴史学はそれらの知的基盤を日本から受容した。つまり、東アジアの人文学は近代国民国家の形成期に帝国主義的な発展を遂げた日本の学知をモデルに成立したと言える。しかし、国家の枠組が衰退した現在、国民意識形成のための人文学がもはや存在理由を失っていることは、レディングズ『廃墟のなかの大学』(1996)が説いたとおりである。にも拘わらず、相互に知的範型を共有している東アジア文化圏では、その危機感が薄く問題の所在が不明確である。このような知見に立って、東アジアの人文学をリードしてきた日本の人文学を検証し、これからの時代に相応しい新たな人文学の創出を提唱する。

### 3 研究プロジェクトの進捗及び成果の概要

東アジア諸国の人文学の危機を闡明し、知的範型を共有している東アジア文化圏の規模で現今の人文学のあり方を批判的に検証するために[グループ 1:近代日本と東アジアに成立した人文学の検証][グループ 2:ポストコロニアル時代の人文学、その再構築][グループ 3:早稲田大学と東アジア]が各々の課題に取り組んだ。主たる成果としては[グループ 1]では、『日本「文」学史 第一冊「文」の環境―「文学」以前』、『朝河貫一と日欧中世史研究』の2冊を刊行した。[グループ 2]では、国際シンポジウム「新世紀:越境する東アジアの文化を問う―カルチュラルスタディーズ・文学・サブカルチャー―そして人々の心―」を開催し、中国語・英語で海外学術雑誌に特集として刊行すべく準備をしている。[グループ 3]では、津田左右吉関係の国内外の資料調査によって津田の翻訳原稿や出版内閣関係資料等の新たな発見があった。その他に、留学生情報の確認・整理、データベース化が進展し、その成果は『津田左右吉とアジアの人文学』2・3号で公表した。[グループ 1]が近代日本の欧米人文学の受容と形成、成立を明らかにし、[グループ 2]が第二次大戦の終結から冷戦を経て21世紀に至る人文学のあり方をカルチュラルスタディーズ、サブカルチャー等の分析により従来の人文学を相対化してその克服の道筋を示し、[グループ 3]が近代日本の人文学と東アジアにおける人文学の関連性を早稲田大学の事例(津田左右吉と留学生)を通して明らかにして自らの人文学の再生を模索することを目指すなど、各々が所期の課題に即した上記のような成果があった。今後、3グループの研究成果を統合して、時代に即した新たな人文学の創出を提言する課題が残されている。



法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

藤本 一勇	文学学術院・教授	現代思想研究	思想研究の再検討・再構築(統括)
谷口 眞子	文学学術院・教授	日本史研究	歴史研究の再検討・再構築(統括)
李 成市	文学学術院・教授	アジア史研究	歴史・思想研究の再検討・再構築
草原 真知子	文学学術院・教授	サブカルチャー・メディア研究	文化研究の再検討・再構築
オディール・デュスッド	文学学術院・教授	ヨーロッパ文学・文化研究	ヨーロッパから見る日本思想・文学・文化・歴史
藤井 仁子	文学学術院・教授	映画・思想研究	文化・思想研究の再検討・再構築
小沼 純一	文学学術院・教授	音楽・思想研究	文化・思想研究の再検討・再構築
松永 美穂	文学学術院・教授	欧米・日本の文学・文化研究	文化・思想研究の再検討・再構築
高橋 敏夫	文学学術院・教授	日本の文学・文化研究	文化・思想研究の再検討・再構築
貝澤 哉	文学学術院・教授	欧米の文学・メディア研究	文化・思想研究の再検討・再構築
新川 登亀男	文学学術院・教授	津田資料と留学生の調査研究と統括	事実史と思想史の関係解明
海老澤 衷	文学学術院・教授	津田資料の調査研究	生活観と国民思想の関係解明
渡邊 義浩	文学学術院・教授	津田資料の調査研究	漢学から中国学への解明
鶴見 太郎	文学学術院・教授	津田資料の調査研究	民俗学とアジアの関係解明
十重田 裕一	文学学術院・教授	津田資料の調査研究	国民国家と文学思想の関係解明
真辺 将之	文学学術院・教授	大学および留学生資料の調査研究とデータベース作成	近代国家と大学・留学生の関係解明
(共同研究機関等) 根占 献一	学習院女子大学・教授	A(人文学の形成) B(近代歴史学の形成)	西欧の人文学及び歴史学の受容に関する問題の解明
ウィーブケ・デネッケ	ボストン大学・准教授	C(「文学」概念)	「文」と「文学」の展開に関する問題の解明
ナオキ・サカイ	コーネル大学・教授	日本思想・文学・文化・歴史研究	アメリカから見る日本思想・文学・文化・歴史
セシル・サカイ	パリ第7大学・教授	思想・文学・文化・歴史研究	ヨーロッパから見る日本思想・文学・文化・歴史
王 暁明	上海大学・教授	中国の思想・文学・文化・歴史研究	中国から見る日本思想・文学・文化・歴史
王 宏志	香港中文大学・教授	東アジアの思想・文学・文化・歴史研究	アジアから見る日本思想・文学・文化・歴史
白 永瑞	延世大学校・教授	東アジアの思想・文学・文化・歴史研究	韓国から見る日本思想・文学・文化・歴史
鈴木 正信	文部科学省教科書調査官	津田および留学生資料の調査研究とデータベース作成	文献批判と留学生の関係解明
ディヴィッド・ルーリー	コロンビア大学・准教授	津田の欧米資料と神話学の調査研究	欧米における津田論の解明

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

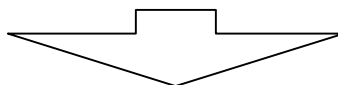
崔 光植	高麗大学校・教授	津田資料と韓国留学生の資料調査研究	韓国側資料と留学生の解明
井上 亘	常葉大学 教育学部教授	津田資料と中国留学生の資料調査研究	中国側資料と留学生の解明

## &lt;研究者の変更状況(研究代表者を含む)&gt;

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
B(近代歴史学の形成)	文学学術院・准教授	井上 文則	西欧の実証的歴史学の受容と翻訳に関する問題の解明

(変更の時期:平成 27 年 4 月 1 日)



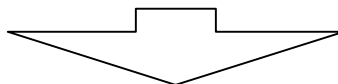
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
文学学術院・准教授	文学学術院・教授	井上 文則	西欧の実証的歴史学の受容と翻訳に関する問題の解明

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
日本史研究	文学学術院・准教授	谷口 眞子	歴史研究の再検討・再構築(統括)

(変更の時期:平成 27 年 4 月 1 日)



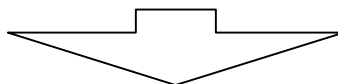
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
文学学術院・准教授	文学学術院・教授	谷口 眞子	歴史研究の再検討・再構築(統括)

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
映画・思想研究	文学学術院・准教授	藤井 仁子	文化・思想研究の再検討・再構築

(変更の時期:平成 28 年 4 月 1 日)



新

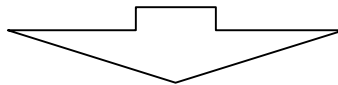
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
文学学術院・准教授	文学学術院・教授	藤井 仁子	文化・思想研究の再検討・再構築

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
B(近代歴史学の形成)	高等研究所・准教授	飯山 知保	東洋史学成立の背景に関する問題の解明

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

(変更の時期:平成 29 年 4 月 1 日)



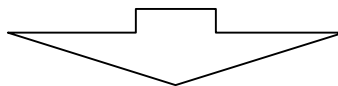
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
高等研究所・准教授	文学学術院・准教授	飯山 知保	東洋史学成立の背景に関する問題の解明

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
津田および留学生資料の調査研究とデータベース作成	滋賀大学・准教授	鈴木 正信	文献批判と留学生の関係解明

(変更の時期:平成 27 年 4 月 1 日)



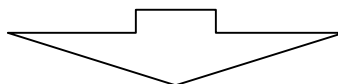
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
早稲田大学・高等研究所 准教授(任期付き)	文部科学省 教科書調査官	鈴木 正信	文献批判と留学生の関係解明

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
津田の留学生資料の調査研究	東京成徳大学・教授	増尾 伸一郎	津田とアジア留学生の関係解明

(変更の時期:平成 26 年 7 月 25 日)



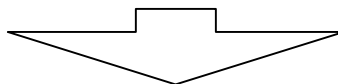
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
なし	なし	なし	なし

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
津田資料と中国留学生の資料調査研究	北京大学 教授	井上 亘	中国側資料と留学生の解明

(変更の時期:平成 26 年 4 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
北京大学 教授	常葉大学 教育学部教授	井上 亘	中国側資料と留学生の解明

## 11 研究進捗状況(※ 5枚以内で作成)

(1)研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

日中、日韓の関係は半世紀のタイムスパンでも最悪と言われる。その状況下で相互信頼の精神的基盤として人文学に寄せられる期待は大きい。日中、日韓の軋轢の原因には「歴史認識問題」が挙げられるが、その基底にあるのは近代日本が構築した国民主義的歴史学であり、中国、韓国の歴史学はそれらの知的基盤を日本から受容した。つまり、歴史学と共に国民文学や思想史を含めて、東アジアの人文学は近代国民国家の形成期に帝国主義的な発展を遂げた日本の学知をモデルに成立したと言える。しかし、国家の枠組が衰退した現在、国民意識形成のための人文学がもはや存在理由を失っていることは、レディングズ『廢墟のなかの大学』（1996）が説いたとおりである。にも拘わらず、相互に知的範型を共有している東アジア文化圏では、その危機感が薄く問題の所在が不明確である。このような知見に立って、東アジアの人文学をリードしてきた日本の人文学を検証し、これからの時代に相応しい新たな人文学の創出（復興・再生）を提唱する。

## (2) 研究組織

【全体像・研究代表者の役割・各研究者の役割分担や責任体制】本プロジェクトは以下の3つの研究テーマが設けられている。

【グループ1】近代日本と東アジアに成立した人文学の検証（11名）

【グループ2】ポストコロニアル時代の人文学、その再構築—21世紀の展開に向けて（17名）

【グループ3】早稲田大学と東アジア—人文学の再生に向かって—（10名）

各グループは、人文学の基礎をなす日本史・日本文学、西洋史・西洋文学、東洋史・東洋哲学の各分野の研究者による領域横断チームで編成されている。各グループには研究リーダーを配置し、グループ内の研究活動に伴う予算の申請・執行、研究進捗の管理について責任を負っている。その上で研究代表者がこの3グループを総括し、融合させる役割を担う。

【大学院生・PD および RA の人数活用状況】データベース作成、シンポジウム運営、文献収集・翻訳、資料整理等で延べ40名ほどが従事しており、研究活動を通じた教育的価値に繋がっている。

【研究支援】本プロジェクトの研究組織である「総合人文科学研究センター」は、母体である「文学学術院」の附属研究所となり、研究施設・研究費の管理はこの「文学学術院」の事務職員および、全学の研究活動の支援部局となる当学研究推進部が行っている。

【チーム間の連携状況】研究代表者を頂点に、3グループの研究リーダーと研究支援を行う事務職員により、定期的にチーム間の連携状況を確認している。

【共同研究機関等との連携】調査、国際シンポジウム、共同執筆・出版を通じた共同研究を韓国・中国・台湾・米国等の海外連携機関（高麗大学校、延世大学校、北京大学、香港中文大学、国立台湾大学、コロンビア大学、コーネル大学ほか）と実施し、領域・世代・国を超えたオープンな研究体制を構築している。中でも2009年より中国の清華大学・南開大学、韓国の漢陽大学、台湾の国立台湾大学と学術交流協定を結び、持ち回りで人文学に関わる国際人文学フォーラム「東アジア人文学フォーラム」を実施されており、各グループに所属する研究者が参加していることは特筆すべき点となる。また「総合人文科学研究センター」による年次シンポジウムや、国際シンポジウムの開催を通して、共同研究機関や研究メンバーとの連携の機会となっている。

## (3) 研究施設・設備等

本プロジェクトの中核をなす「総合人文科学研究センター」の関連施設は、2014年10月に建て替えが完了した当学戸山キャンパス（東京都新宿区戸山1-24-1）33号館低層棟6階・7階（491㎡）を中心としたものになる。TV会議システム等を整備し、海外研究者との打ち合わせに利用される「国際会議室」や、招聘研究者用の研究スペースである「共同研究室」はここに含まれる。またこの他にも33号館高層棟および39号館にある個別研究室を利用している。

## (4) 進捗状況・研究成果等 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び\*を付すこと。

### ■<現在までの進捗状況及び達成度>

採択初年度の2014年度には3つのグループ全体で、基盤形成事業全体に関連するキックオフ・シンポジウム「新しい人文学の地平を求めて—ヨーロッパの学知と東アジアの人文学—」（2014年12月6日）を行った。このシンポジウムでは、日本と東アジア世界でこれまで通用してきた人文学の危機の現状を確認し、人文学の新たな再生の方向を探るべく、日本の人文学の基盤となったヨーロッパの人文学のあり方を問い、それを基軸に、東アジアの人文学が抱える問題について議論した。とくに基調報告では、近代ヨーロッパの人文学の本質が、人間の「認識されたものの認識」、すなわち人間精神が生み出したテキストの読解・解釈にあるという視点が提示され、その上で、人文知は自然科学的な科学的知ではなく、「人間形成に照準を合わせた学知」であらねばならないという指摘がなされた。この基調報告に対し、シンポジウムではヨーロッパ地域と東アジア地域の人文学の研究者がそれぞれの立場からコメントを行った。

### 【グループ1】近代日本と東アジアに成立した人文学の検証

グループ1では、プロジェクトの活動を推進するために以下のA～Cの三つの班を形成し、研究を遂行するこ

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

とにした。

A 班は、「西欧文明の東アジア世界への接続」を共通テーマに掲げ、日本史、東洋史、西洋史、思想史などの様々な分野をわたって、学際的な共同研究を遂行する班である。B 班は、「ユーラシア歴史世界の再構成」を共通テーマに掲げ、歴史学とくに東洋史と西洋史の分野の研究者による共同研究を行う班である。C 班は、「東アジア世界における人文学の伝統と変容」をテーマに掲げ、日本文学、ヨーロッパ文学、日本思想史、表象・メディア論の研究者が主体となる班である。このような三つの班を作ったが、三つの研究班は随時協力して研究会やシンポジウムを開催することも確認した。

A 班の企画としては、シンポジウム「近世のキリスト教布教と東アジア」(コーディネーター: 甚野尚志、2015 年 3 月 4 日)を行い(\*1-4,26,69,70)、C 班の企画としては、「東アジアから 1968 年を見つめ直す」(コーディネーター: 梅森直之、2014 年 11 月 8 日)を行った(\*1-48)。2014 年度にはこの他にも、研究分担者による海外での研究報告、招聘研究者の講演会なども行ったが、これらの活動を通じ、グループ1のテーマである「近代日本と東アジアに成立した人文学の検証」について、その問題の所在を明確にできた。2015 年度には B 班の企画として、シンポジウム「世界史のなかのユダヤ人」(コーディネーター: 甚野尚志、2015 年 10 月 3 日)、シンポジウム「朝河貫一と日本中世史研究の現在」(コーディネーター: 海老澤衷、甚野尚志、2015 年 12 月 5 日)(\*1-5,1-56)、シンポジウム「通商・巡礼・亡命: 17 世紀～20 世紀初頭の中央ユーラシアにおける超境界活動」(コーディネーター: 柳澤明、2016 年 3 月 12 日)を行い(\*1-97)、日本の近代歴史学が形成してきた歴史学の時代区分、地域の枠組み、分析概念の問題点を、日本史、西洋史、東洋史の領域を横断する形で明確にすることができた。また C 班の企画として、シンポジウム「美術批評とアジア—同時代性と植民地性」(コーディネーター: 橋本一径、2016 年 2 月 6 日)を行った(\*1-3,92,101)、そこでは、明治期以来、日本のみならず東アジアの諸国が、西洋美術とそれぞれ取り結んできた関係を見つめ直すことができた。また、シンポジウム「日本「文」学史」ワークショップ「文」と人びと——継承と断絶」(コーディネーター: 河野貴美子、陣野英則、2016 年 3 月 27 日)では、日本の文学史において東アジア的な「文」の概念をいかに再評価すべきか、という問題について一定の見通しを得ることができた(\*1-1,7,9,14,18,19,59,60)。また 2016 年 1 月には、日本以外の東アジアで人文学研究がどのような問題を抱えているのかを比較検討すべく、国立台湾大学でワークショップを開催し、台湾の人文学研究者との対話を試みた。

2016 年度は A 班の企画として、「イタリア中世・ルネサンスの政治思想」に関するシンポジウム(コーディネーター: 甚野尚志、2016 年 9 月 17 日)を開催し(\*1-26,57,94)、ルネサンス思想が日本の人文学にどのように受容されたかを討議することができた。また B 班の企画としては、シンポジウム「モンゴル帝国継承国家論の再検討」(コーディネーター: 柳澤明、2016 年 7 月 9 日)を行い(\*1-97)、モンゴル史、中央ユーラシア史の枠組みの再検討を行った。C 班の企画としては、シンポジウム「記憶と文化」(コーディネーター: 梅森直之、2016 年 7 月 18,19 日)を行い(\*1-58)、沖縄の歴史と人々の記憶を問い直し、またシンポジウム「アジアのシェイクスピア受容」(コーディネーター: 冬木ひろみ、2017 年 1 月 7 日)では、東アジア世界でシェイクスピアの受容を問い直した。さらに、「グローバル時代のアートと翻訳」(コーディネーター: 橋本一径、2017 年 3 月 27 日)は、前年度のシンポジウム「美術批評とアジア」を発展させ、東アジアの美術批評の独自性を分析した。このような3年間の活動を通じ、グループ1の当初の計画を遂行することができた。

## 【グループ2】ポストコロニアル時代の人文学、その再構築—21 世紀の展開に向けて

### ①国際シンポジウムの開催【毎年開催】

各国の最先端の研究者・実作者との対話を通して、1980 年代以降に出現した東アジアに共通する新たな文化現象に対する、思想研究・文化研究・文学研究・歴史研究の到達点と限界を明らかにし、研究の革新に向けて提言を試みることを本グループの研究の柱とした。

2014 年度「デリダ没後 10 年」デリダが日本現代思想に与えた影響の一端を明らかにした(\*2-13・14,22・23,27,32,58,78)。

2015 年度「1980 年代サブカルチャー再訪: アジアを貫く若者文化の起源」音楽家・マンガ家・批評家との議論から、この時期に始まる東アジアの若者文化共通化の実像を明らかにした(\*2-68)。

2016 年度「新世紀: 越境する東アジアの文化を問う—カルチュラルスタディーズ・文学・サブカルチャー—そして人々の心—」東アジアの新たな文化状況に対する文化研究の到達点と限界、状況の背景にある精神状況の変化を明らかにし、今後の研究の可能性を提示した(\*2-62)。

これらのシンポジウムを通じて、思想研究・文化研究の抱える課題と今後の革新について、新たな知見の獲得、研究の革新につながる幾つかの提言ができたと考える。

### ②人文学の再構築に向けた基礎研究の推進【資料の収集・調査とデータベース化】

・サムライ・イメージの形成と変遷について、仏・独・露で資料収集とアンケート・インタビュー調査を行い、サブカルチャーを通じた欧州における日本人イメージ形成過程の一端を明らかにした。現在、米・中での調査、データベースの作成を進めており、完成しだい公開する(\*2-63)。

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

・日本国内及びアメリカで、戦後文学に関する文字・映像資料を調査・収集し、特にコロンビア大学のコレクションによって、戦後の一時期の文学・映画に関わる新しい知見が得られた(\*2-1~3,15,24,26,43,59~61)。

・『早稲田文学』の本文データベースを作成している。これまでに著作権切れの21作品について完成し、戦後文学を代表する文学雑誌の新たなアーカイブを部分的に構築できた(\*2-71)。

・ACG・ラノベ・同人活動、村上春樹の受容について、東アジアに続いてアメリカでアンケート・インタビュー調査を行い、東アジアと共通点が多いことを明らかにした。現在、韓国・欧州で調査を進めている(2-4~10,17~21,34,45~46,50~52,54~56,81,82,85)。

これらの基礎的研究を通じて、各領域の研究革新のための基盤を一部整備できたと考える。

③先端的な研究の模索・先端的な議論の展開【講演会・小型シンポジウムの開催】

・2014年度「ナムジュン・パイクとK-456——阿部修也さんとロボット、アート、文化について語る」を開催し、最先端の芸術ロボットアートについて新たな知見を示すことができた(\*2-16,76)。

・2015年度、神戸大、トリーア大、早稲田大の三カ所で、日本・ロシア・ドイツの戦後現代抒情詩に関するワークショップを共催し、現代詩研究に新たな視点を提供することができた(\*2-44,69)。

・2015年度、シンポジウム「スクリーン・プラクティス再考：メディア考古学的視点から」を開催し、無声映画研究に対する新たな視点からのアプローチを提示することができた(1月)(\*2-28~30,33,39,41・42,83・84)。

・2016年度、講演会「フランス語漫画におけるサムライ」を開催し、ヨーロッパにおける日本人イメージの展開に新たな視点を提示することができた(10月)(\*2-63)。

・毎年、多和田葉子&高瀬アキの創作と朗読のパフォーマンス・ワークショップを行い、映像をアーカイブ化している(\*2-66・67,73・74,79・80)。「葛飾北斎」の絵に言葉と音楽をつける先端的な試み(2016年度)など、文学・芸術の新たな可能性を示すことができた。

・2014年度は李・藤本が、2015年度は藤本が、2016年度は藤本・千野が「東アジア人文学フォーラム」に参加し、東アジアの各大学との先端的な知見の交換を恒常化することができた(\*2-35,37,49,57,65,70,77)。これらの先端的議論を通じて各領域における研究革新の可能性を一部提示できたと考える。

④革新的な若手研究者の育成

・毎年、上海大学・南開大学・早稲田大学で、全てを各国の学生が連携して行う大学院生の国際学術討論会を共同開催している。中国の全国的学術誌への掲載論文が複数出ている(\*2-64,72,75)。

・大学院生の海外での資料調査、シンポジウム・学会への参加を支援し、のべ9名の院生が海外で研究・調査を行って、それぞれ学位論文・学術論文の完成につなげることができた。

これらの育成活動を通じて、新世代の研究者による革新的研究が育ちつつあると考える。

【グループ3】早稲田大学と東アジア —人文学の再生に向かって

A・B両班を設けて調査研究をおこなった。A班は津田左右吉を中心とした人文学形成者の資料調査研究、B班は1945年以前の留学生資料調査研究である。津田らと留学生との学知をめぐる交差にも留意し、調査研究の成果公開をめざす。

初年度にあたる平成26(2014)年度は、第一に、研究体制の整備(機器購入を含む)、早稲田大学所蔵の津田左右吉資料(未公開)の確認(A班:渡邊義浩チーム)、津田との関係が深い岩波茂雄関係資料調査(A班:十重田裕一チーム)、留学生資料の確認(B班:真辺将之チーム)を開始する(\*3-30,45,72,76)。第二に、日韓中国国際シンポジウム「仏教文明の拡大と転回」(早稲田大学、2014,10,24-25)を開催し、仏教文明に関する認識や研究が現在どのような状況にあるのかを日本・韓国・中国の研究者17名が報告し合い、討論した(\*3-56・57,79)。その結果、認識や研究のズレが確認され、東アジアにおける人文学のあり方を問い直す好機となった。第三に、特別研究集会「津田左右吉の人文学と中国」(早稲田大学、2015,1,17)を開催し、津田の満州朝鮮歴史地理研究に対する中国側の反応が取り上げられた(\*3-12,45,81)。第四に、B班による留学生関係の海外調査を実施した(\*3-29,66~68)。対象は中国(南京市・中国歴史档案馆、北京市・中国国家図書館)(2014,12,28-2015,1,5)、台湾(国立台湾図書館、中央研究院、国史館ほか)(2015,2,3-7)、韓国(早稲田大学韓国校友会、韓国国会図書館、韓国国立中央図書館)(2015,3,9-13)である。資料の公開度・閲覧方法などが確認された。

平成27(2015)年度は、第一に、A・B両班による資料調査・整理を継続した。大学所蔵の資料については、データベース化の準備をすすめた。第二に、A・B両班合同で日本思想史学会大会特別パネルセッション「津田左右吉と早稲田大学—記憶と記録—」(早稲田大学、関連資料展示 2015,10,18)を開き、報告した(\*3-45,76)。第三に、早稲田大学の文化行事(2015,10,24,26)において、新川登亀男が津田のアジア認識と留学生のかかわりについて報告した(\*3-78)。第四に、定期刊行誌『津田左右吉とアジアの人文学』1.2号(2016,3)を発刊し、早稲田大学所蔵の「津田左右吉文庫目録」と前年度の特別研究集会「津田左右吉の人文学と中国」の報告内容を全文公開した(\*3-45,81)。

平成28(2016)年度は、第一に、A・B両班による資料調査・整理を継続して、データベース化をすすめた。第二



法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

に、A班(鶴見太郎チーム)による柳田國男・丸山真男両文庫の調査と、同A班(十重田チーム)による出版検閲関係の資料調査(科研費協力)があらたに加わった(\*3-4,13・14,36,70,72)。第三に、新川登亀男、真辺将之が本研究および日本史研究全体の現状と課題を中国・南開大学で講演し、多くの関心を集めた(2016,7,7)(\*3-2,9~11,20,32,73,75)。第四に、台湾における留学生資料調査を真辺将之が継続した(2016,12,27-2017,1,6)。第五に、早稲田大学総合人文科学研究センター等と共同で国際シンポジウム「人文学の再建とテキストの読み方—津田左右吉をめぐって—」を開いた(早稲田大学、2017,1,14)。津田の人文学形成と近代との相関性を多角的な観点から報告し合い、多数の参加者を得た(\*3-23,69・70,72,74)。第六に、『津田左右吉とアジアの人文学』3号(2017,2)を発刊し、B班による留学生資料調査中間報告特集となった(\*3-29,66~68)。

### ■<特に優れた研究成果>

#### 【グループ1】近代日本と東アジアに成立した人文学の検証

2014年度の「日本『文』学史」ワークショップ(2014年5月)の成果として、河野貴美子、Wiebke Denecke、新川登亀男、陣野英則編『日本『文』学史 第一冊「文」の環境—「文学」以前』(勉誠出版、2015年)(\*1-64,65)を刊行し、2015年度のシンポジウム「朝河貫一と日本中世史研究の現在」(2015年12月)の成果として、海老澤衷、近藤成一、甚野尚志編『朝河貫一と日欧中世史研究』(吉川弘文館、2017年3月)(\*1-56)を刊行した。国立台湾大学、北京大学において東アジアの人文学の新しい可能性についての意見交換を行い、今後の東アジアにおける人文学の共同研究への見通しを得ることができた。

#### 【グループ2】ポストコロニアル時代の人文学、その再構築—21世紀の展開に向けて

2016年度に国際シンポジウム「新世紀：越境する東アジアの文化を問う—カルチュラルスタディーズ・文学・サブカルチャー・そして人々の心—」を開催した。内容は日本で単行本として出版し、中国語・英語でも一部を海外の学術雑誌の特集として発表する(2017~18年度)。

#### 【グループ3】早稲田大学と東アジア—人文学の再生に向かって

①A班(渡邊義浩・十重田裕一両チーム)による津田左右吉関係の資料調査(早稲田大学図書館蔵、アメリカ・メリーランド大学蔵ブラング文庫)で津田の翻訳原稿や出版内閣関係資料新発見が相次いだ(\*3-69,72)。②B班(真辺将之チーム)による早稲田大学大学史資料センター所蔵の未公開津田資料(書簡など)の全文整理・翻刻と同資料センター所蔵『校友会会員名簿』による留学生情報の確認・整理、データベース化とが進展し、その成果は『津田左右吉とアジアの人文学』2・3号で公表された(\*3-29,45,66~68)。③研究集会やシンポジウムにおいて、津田の人文学を多角的に検討することができた(\*3-12,46,48~50,52,69・70,72,74,78,80・81)。

### ■<問題点とその克服方法>

本研究プロジェクトの目的として設定した課題やキックオフ・シンポジウムで再確認された問題点の把握において、各グループのその後の取り組みや成果には濃淡があり、各グループが設定した課題の成果に終わっていることを率直に認めざるを得ない。残された2年(2018年、2019年)は、キックオフ・シンポジウムを継承し、第2グループ、第3グループが総合的な課題で、シンポジウムを開催し、各グループの成果が、本研究プロジェクトの目的として設定した課題にどのように貢献しているのかを明確にすることを求めていく。また、その前提として、研究代表者と、各グループの責任者は、2ヶ月に一度の割合で、プロジェクトの目的に沿った事業報告と成果の報告を行うことを中間審査報告書作成の段階で決定した。

#### 【グループ1】近代日本と東アジアに成立した人文学の検証

3つの班それぞれが一定の研究成果を出したことは評価できるが、なお、ヨーロッパの人文学の受容の問題、近代歴史学の枠組みの再考、文学概念の再考という3つの大きな問題について、各テーマを総合的に論じた成果を出すには至っていない。今後の2年間、定期的に研究会やシンポジウムを開催し、各テーマのまとめとなる成果を出して行きたい。

#### 【グループ2】ポストコロニアル時代の人文学、その再構築—21世紀の展開に向けて

80年代以降の文化状況を対象とする人文知の再検討は順調に進んでいるが、さらに新たな知の構築に向けて提言を進める必要がある。そのため国際シンポジウムの成果を毎年出版する。基礎研究・先端的研究・若手研究者育成を継続し成果の発表に繋げる。

#### 【グループ3】早稲田大学と東アジア—人文学の再生に向かって

①これからの人文学のあり方に貢献できる総括をおこなうために、津田左右吉と他者との比較検討も必要であり、さらに、あらたな視角の導入を議論している(\*3-11,28,70,72,77)。②留学生関係の基本的資料には、疎漏や誤記、人権問題などがあり、正確な調査研究がどこまで可能であるのか課題となる。そこで、留学生の個別研究をおこなう方法を協議している(\*3-66~68,78)。さらに、諸学のうちで人文学が占める割合や位置づけも検討課題である。

### ■<研究成果の副次的効果(実用化や特許の申請など研究成果の活用の見通しを含む。)>

#### 【グループ1】近代日本と東アジアに成立した人文学の検証

イェール大学スターリング図書館に所蔵されている「朝河貫一文書(Asakawa Papers)」の全貌が書物の形で公

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

表されれば、20世紀前半における日米欧の人文学の交流史に大きな貢献ができるはずである。

**[グループ2] ポストコロナル時代の人文学、その再構築—21世紀の展開に向けて**

サムライ・イメージ、早稲田文学のデータベースは、それぞれ世界における日本人イメージの形成・戦後文学の貴重なアーカイブとして、今後の研究に大きく貢献すると思われる。

**[グループ3] 早稲田大学と東アジア —人文学の再生に向かって**

津田未公開資料と留学生資料のデータベースが本格的に公開されれば、近代日本の人文学のあり方を再考するにあたり、基盤的な貢献ができる。また『津田左右吉とアジアの人文学』1・2・3号(続刊予定)の活用が期待される。

**■<今後の研究方針>**

問題点とその克服方法で記したとおり、これまでの成果は、各グループが設定した課題の成果に終わっており、本研究プロジェクトの目的が十分踏まえていない。今後の研究方針は、下記の通りではあるが、それらの研究が、目的に沿った研究であることを十分に踏まえているのかを2ヶ月に一度、研究代表者と各グループの責任者との会議で報告することとする。

**[グループ1] 近代日本と東アジアに成立した人文学の検証**

すでに論文集が出た朝河貫一研究のような具体的な研究対象についてより詳細な研究を遂行し、また A、B、C 班が行ってきたテーマについても何等かの研究成果をまとめる予定である。

**[グループ2] ポストコロナル時代の人文学、その再構築—21世紀の展開に向けて**

文学・歴史の面から新たな文化状況に対する研究を検討する国際シンポジウムを開催する。資料収集・データベース構築・アンケート調査、先端的研究の提示、若手研究者の育成は継続して行う。最終年度にグループとしての研究の総括を行い、本事業全体の総括に繋げる。

**[グループ3] 早稲田大学と東アジア —人文学の再生に向かって**

A・B 両班による調査研究体制を基本的に継続する。そして、津田左右吉の人文学形成を総括する意味からも、西洋・東洋とのかかわりにおいて形成された近代日本の人文学総体とその可能性について、前近代以来の翻訳文化を念頭にいた新視角などを導入した総括をめざす。同時に、日本とアジア諸地域の人文学の同異性にも注視し、今後の人文学再建に貢献したい。

**■<今後期待される研究成果>**

2017年12月に開催を予定している東アジア人文学フォーラムでは、中国・台湾・韓国の4大学を招いて「東アジアにおける人文学の復興」と題するシンポジウムを開催するが、3グループから各々発表者を出して、自己検証の場とする。その上で、現在、当学文学学術院がSGU(スーパーグローバル大学創成支援事業)の学内6拠点の1つとなっている国際日本学の事業との関係で、日本を含む東アジアの人文学の立場から、東洋系と西洋系の別を超えた、双方に通じる人文学の方向性をみいだすことを目指したい。

**■<自己評価の実施結果及び対応状況>**

中間報告書作成段階で3度にわたって会議を行った。そこでは<問題点とその克服方法><今後の研究方針>で記したように、3グループの各々の研究成果があるとしても、本研究プロジェクトの目的に向かって各グループの研究成果を統合して、時代に即した新たな人文学の創出を提言するには、残された2年間に3グループの課題の連関性を論じる機会を頻繁に設ける必要があると判断した。

**■<外部(第三者)評価の実施結果及び対応状況>**

キックオフ・シンポジウムで問題提起をして下さった●●●●教授(●●●●大学)に外部評価を担当して頂くこととした。外部評価によれば、設定した主題に対して、3つのグループの成果を一つの方向に収斂させる具体的な方途が求められている。まず、本課題は「近代日本の人文学」を問うことが前提であるが、近代日本が欧米の学問を如何に受容・摂取したかといった、その成立過程を闡明するという中核的な問題解明の欠落に対する指摘があった。また本研究がめざすポストコロナル時代における人文学の再構築の追究にあたって、コロナル時代の近代西欧の人文学を問い返し、その問題点を克服する方途を、日本と東アジアの知的遺産のなかに模索するような試みの必要も求められている。さらに、グループ3には津田左右吉の学問的遺産の妥当性をポストコロナル時代である現代に問うてみるという提言もあった。人文学の再生を目指す本研究にとって、引き続き、各グループの個別課題の掘り下げと同時に、「全体知としての人文学」という視点の重要性を再認識すべきことも留意点として掲げられている。課題に沿った研究成果を結実させるためには、上記の問題点を反芻し、その上で共通目標へと向けて研究の方向性の修正を図りたい。

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) 朝河貫一 (2) 人文知の革新 (3) サブカルチャー  
 (4) データベース (5) 津田左右吉 (6) 留学生  
 (7) テキスト (8) ヨーロッパ文明

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには\*を付すこと。

<雑誌論文>

<p><b>[グループ1] 近代日本と東アジアに成立した人文学の検証</b></p> <p>2016年度</p> <p>*1-1.陣野英則「古典テキストの中の越境と交流—『篁物語』を例に—」『文学・語学』218,全国大学国語国文学会,2017年3月</p> <p>1-2.陣野英則「花桜折る少将」の切り詰められた世界—終末部における中将の乳母登場の意義など—横溝博・久下裕利編『知の遺産シリーズ4 堤中納言物語の新世界』,武蔵野書院,2017年3月。</p> <p>1-3.橋本一径「心霊主義における声と身元確認——「作家なき作品」の制作の場としての交霊会」,塚本昌則、鈴木雅雄編『声と文学』,平凡社,2017年3月,412-434頁</p> <p>*1-4.根占献一、Suicide and its Meaning in History: Rethinking Francesco Carletti and Japanese Writers, Bulletin of Gakushuin Women's College, No.19, 2017, pp.145-156</p> <p>*1-5.甚野尚志「朝河貫一と日欧比較封建制論」(海老澤衷、近藤成一、甚野尚志編『朝河貫一と日欧中世史研究』,吉川弘文館,2017年3月,2-40頁</p> <p>1-6.橋本一径「人間はいつから病気になったのか——こころとからだの思想史[第5回「痛み」は誰のものか?」,『Cancer Board Square』,vol.3, no.1, 2017年2月,162-166頁</p> <p>*1-7.河野貴美子、「渤海との外交における文事と白居易」,『中古文学』(中古文学会),98,2016年12月,41-52頁</p> <p>1-8.飯山知保、「Steles and Status: Evidence for the Emergence of a New Elite in Yuan North China,」(英語) Journal of Chinese History, vol.1, November, 2016. pp.1-24</p> <p>*1-9.河野貴美子、「『日本霊異記』における『法華経』語句の利用」,浅田徹編『アジア遊学 日本化する法華経』(勉誠出版),202,2016年10月,145-159頁</p> <p>1-10.橋本一径「人間はいつから病気になったのか——こころとからだの思想史[第4回] 慢性疾患は医学の敗北か?」,『Cancer Board Square』,vol.2, no.3, 2016年10月,216-220頁</p> <p>1-11.冬木ひろみ、「記憶と五感から見る『ハムレット』」,『甦るシェイクスピア—没後400年記念論文集』,日本シェイクスピア協会編、査読有、研究社、2016年10月,40-61頁</p> <p>1-12.冬木ひろみ、「『冬物語』の神話世界—祈りから再生へ」,『祈りと再生のコスモロジー』瀧澤雅彦、紺本英雄編、査読無、成文堂、2016年9月,713-728頁</p> <p>1-13.飯山知保、「明代先瑩碑の変遷」,『宋代史から考える』編集委員会[編],『宋代史から考える』,東京:汲古書院,2016年8月,289-312頁</p> <p>*1-14.河野貴美子、「幼学書・注釈書からみる古代日本の「語」「文」の形成——漢語と和語の衝突と融合」,河野貴美子・王勇編『アジア遊学 衝突と融合の東アジア文化史』(勉誠出版),199,2016年8月,92-107頁</p> <p>1-15.河野貴美子、「「鬼」を語り記すことの意味—『弘決外典鈔』からみる『日本霊異記』の「鬼」および内典・外典(『シンポジウム』二〇一四年十二月例会「南都・鬼・霊異記」)」、『説話文学研究』(説話文学会),51,2016年8月,43-53頁</p> <p>1-16.飯山知保、「Genealogical Steles in North China during the Jin and Yuan Dynasties,」(英語) The International Journal of Asian Studies, vol.13-2, July, 2016, pp.151-196.</p> <p>1-17.橋本一径「人間はいつから病気になったのか——こころとからだの思想史[第3回] 「生まれない」ための医学——エンハンスメントの未来」,『Cancer Board Square』,vol.2, no.2, 2016年7月,190-194頁</p>
---

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

\*1-18.河野貴美子、「『源氏物語』古注釈書が引く漢籍由来の金言成句」、李銘敬・小峯和明編『アジア遊学 日本文学のなかの(中国)』(勉誠出版)、197、2016年6月、216-221頁。

\*1-19.陣野英則「ナラトロジーのこれからと『源氏物語』—人称をめぐる課題を中心に—」助川幸逸郎・立石和弘・土方洋一・松岡智之編『新時代への源氏学第9巻 架橋する(文学)理論』竹林舎、2016年5月、96-122頁

1-20.河野貴美子、「日本文学史における『日本霊異記』の意義——その表現と存在——」、『上代文学』(上代文学会)、116、2016年4月、28-45頁

1-21.橋本一径「人間はいつから病気になったのか——こころとからだの思想史[第2回] 誰のものでもない体」、『Cancer Board Square』,vol. 2, no. 1, 2016年、198-202頁。

#### 2015年度

1-22.飯山知保 “A Career between Two Cultures: Guo Yu, A Chinese Literatus in the Yuan Bureaucracy,”(英語) The Journal of Song-Yuan Studies, vol.44, 2014 (published in March, 2016), pp.471-501.

1-23.飯山知保「金元時期北方社会演変与“先瑩碑”的出現」(中国語)、『中国史研究』, 2015年 第4期, 2015年, .117-138頁

1-24.井上文則「宮崎市定と西洋古代史研究」『西洋古代史研究』15号, 2015年, 1-18頁

1-25.河野貴美子「『三教指帰』および『三教指帰注集』にみる『孝経』の受容」、『東アジア比較文化研究』(東アジア比較文化国際会議日本支部), 14号, 2015年, .29-46頁。

\*1-26 根占献一“Aristotelianism, Platonism and Humanism in Japan's Christian Century”, Bulletin of Gakushuin Women's College, no.18, 2016, pp.149-158.

1-27.根占献一“The Era of Movable Type and the Nejime Library in the Age of 'Civilization and Enlightenment'(Bunmei Kaika): Concerning a World with Books,” The Gakushuin Journal of International Studies, vol. 3, 2016, pp.37-48.

1-28.橋本一径「いかにして私たちはイメージに生気を吹き込んでいるのか—ハンス・ベルティンク『イメージ人類学』をめぐって」、『国立新美術館研究紀要』,no.2, 2015年, 264-272頁

1-29.橋本一径「三脚写真論」、『photographers' gallery press』,no. 13,2015年, 58-68頁。

1-30.橋本一径「人間はいつから病気になったのか——こころとからだの思想史[第1回] 動物は病気にならない」、『Cancer Board Square』, vol. 1, no. 1, 2015年, 154-159頁

#### 2014年度

1-31.甚野尚志「トレント公会議シンポジウムについて」、『西洋史論叢』第36号、2014年12月、1-6頁。

1-32.河野貴美子「『花鳥余情』が説く『源氏物語』のことばと心——「漢」との関わりにおいて——」、『国文学研究』175集、2015年3月1-16頁

1-33 河野貴美子「古代日本の仏教説話と内典・外典——『日本霊異記』を中心に」、新川登亀男編『仏教文明の転回と表現 文字・言語・造形と思想』、勉誠出版、2015年3月、169-208頁

1-34.河野貴美子「北京大学図書館蔵の「燕京大学図書館日文书籍総計簿」」、『日本歴史』802号、2015年3月、73-75頁

1-35.河野貴美子「『河海抄』にみる「万葉学」—漢語・漢籍との関係を中心に—」、『國學院雑誌』116巻1号、2015年1月、90-109頁

1-36.河野貴美子「経学文献在古代日語文化中的展開——以源為憲撰《世俗諺文》為中心」、張伯偉編『域外漢籍研究集刊』第10輯、中華書局、2014年10月、17-37頁

1-37.河野貴美子「中国国家図書館蔵楊守敬旧蔵『日本霊異記』写本について」、『文化史資料考證』刊行委員会編『嵐義人先生古稀記念論集 文化史資料考證』、『文化史資料考證』刊行委員会、2014年8月、421-431頁

1-38.陣野英則「物語文学にみえる学問——『うつほ物語』と『源氏物語』の検討から——」、『専修大学人文科学研究月報』(専修大学人文科学研究所)、第272号、2014年9月、11-34頁

1-39.陣野英則「『源氏物語』の本文校訂をめぐって——「須磨」巻の「くしとらす」攷——」、『国文学研究』(早稲田大学国文学会)、第174集、2014年10月、1-12頁

1-40.陣野英則「『源氏物語』の言葉と時空——「ものあはれなり」をめぐって——」、『國語と國文學』(東京大学国語国文学会)、第91巻第11号、2014年11月、16-27頁

1-41.陣野英則「藤式部丞と紫式部=藤式部」、『文学』(岩波書店)、隔月刊第16巻第1号、2015年1月、62-75頁

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

- 1-42.陣野英則「学界時評 中古」、『リポート笠間』(笠間書院)、57号、2014年11月、72-75頁
- 1-43.陣野英則「定家本・青表紙本『源氏物語』のシンポジウムに随伴して学んだこと」、『中古文学』(中古文学会)、第94号、29-30頁
- 1-44.柳澤明「キャフタにおける清朝の「官営隊商」について—“bederge 回子”の活動—」『史滴』36号、2014年12月、pp.232-253
- 1-45.柳澤明「王鍾翰教授とその清史研究」『東方学』第128輯、2014年7月、160-168頁
- 1-46.井上文則 The Image of Gallienus in the Historia Augusta, Memory of the Past and its Utility, ed. by Y. Nakai and P. Carafa, Roma, 2014, pp.131-142.
- 1-47.梅森直之「白井聡『永続敗戦論』:石橋湛山賞受容によせて」、『自由思想』、136号、2015年1月、28-31頁
- 1-48.梅森直之・八尾祥平「東アジアから1968年をみつめなおす」、『ワセダアジアレビュー』17号、2015年、21-24頁
- 1-49.橋本一径「火災写真論 1886-1897」、photographers' gallery press、no. 12、2014年、160-170頁
- 1-50.橋本一径(共著)、真野倫平編『近代科学と芸術創造』、行路社、2015年、59-76頁、137-151頁、383-392頁、451頁(総頁数)
- 1-51.飯山知保「金元交替と華北土人」、『アジア遊学 180 南宋江湖の詩人たち—中国近世文学の夜明け』、東京:勉誠出版、2015年3月、224-233頁
- 1-52.飯山知保「蒙元支配与晋北地区地方精英層の変動—以《定襄金石攷》为中心」(中国語)、『碑銘研究』、第二輯、北京:社会科学文献出版社、2014年11月、pp.137-166.
- 1-53.飯山知保、“The Rise of the Song Sichuanese Literati Elites in Social and Cultural Contexts: A Review of Managing the Territories from Afar: The Imperial State and Elites in Sichuan, 755-1279, by Song Chen,”(英語) Dissertation Reviews (<http://dissertationreviews.org/archives/8854>), posted on May 7, 2014.
- 1-54.飯山知保,“A Tangut Family's Community Compact and Rituals: Aspects of the Society of North China, ca.1350 to the Present,”(英語) Asia Major, 27-1, pp.99-138, May, 2014.
- 1-55.根占献一、「根占献一「ガスパロ・コンタリーニとトレント公会議への哲学的・神学的傾向」、『西洋史論叢』第36号、2014年12月、25-38頁。
- [グループ2] ポストコロニアル時代の人文学、その再構築—21世紀の展開に向けて**
- 2016年度**
- 2-1. 2-1.鳥羽耕史 東アジア連環画の連環——中国から日本、韓国へ、鳥羽耕史、アジア遊学(199)p.186-198、2016年8月
- \*2-2.文壇とその外部——一九五〇年代のサークル詩集、生活記録集の編集をめぐる、鳥羽耕史、文学17(3)p.198-213、2016年6月
- \*2-3.鳥羽耕史 2016 記録映画、テレビ、サブカルチャー研究とアーカイブの現状、鳥羽耕史、日本近代文学(94)p.212-218、2016年5月
- \*2-4.千野拓政《动员方式的变迁与文化转折》—东亚现代文化的转折与日本当代青年文化—(六)《花城》2016年第6期 p201-206、2016年11月
- \*2-5.千野拓政《村上春树的孤独和救济》—东亚现代文化的转折与日本当代青年文化—\*(五)《花城》2016年第5期 p192-197、2016年9月
- \*2-6.千野拓政《幸福国度的绝望青年》—东亚现代文化的转折与日本当代青年文化—\*(四)《花城》2016年第4期 p192-197、2016年7月
- \*2-7.千野拓政《青年文化的来龙去脉》—东亚现代文化的转折与日本当代青年文化—(三)《花城》2016年第3期 p203-208、2016年5月
- \*2-8.千野拓政《中国诗歌的可能心—从杨键说开去》p55-57《东吴学术》2016年第2期 2016年4月、复印报刊资料《中国现代、当代文学研究》2016年第6期に転載
- 2015年度**
- \*2-9.千野拓政《苦恼过海与角色文化》—东亚现代文化的转折雨日本当代青年文化—(二)《花城》2016年第2期 p204-208、2016年3月
- \*2-10.千野拓政《他们是哪里的年轻人?》—东亚现代文化的转折雨日本当代青年文化—(一)《花城》2016年第1期 p203-208、2016年1月

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

\*2-11.千野拓政「一中国文学者からのコメント」《WASEDA RILAS JOURNAL》第3号 p281-285、早稲田大学総合人文科学研究センター2015年12月

<http://www.waseda.jp/flas/rilas/assets/uploads/2015/10/281.pdf>

\*2-12.貝澤哉「安酸敏眞先生のご報告「現(いま)在、あらためて《人文学》を問う」に寄せて」『WASEDA RILAS JOURNAL』NO. 3 p 287 - 290、2015年10月.

<https://www.waseda.jp/flas/rilas/assets/uploads/2015/12/7a09f396ff008219c46df6a8b52c8046.pdf>

\*2-13.藤本一勇「新しい唯物論」方法序説(素描)『現代思想』43/10号(青土社)p91-103、2015年

\*2-14.藤本一勇「他者性の分有——計算不可能なもの計算」『現代思想 総特集デリダ』43-2(青土社) p229-243、2015年

\*2-15.鳥羽耕史「『記録』としての幻灯——機動性を持つ社会運動のメディア」スポーツニク p55 - 57、2015年10月

\*2-16.草原真知子「論考: デバイスアート」<特集・デバイスアート>日本バーチャルリアリティ学会誌 20-3、p15-22、2015年

2014年度

\*2-17.千野拓政<从青年亚文化看文化动员模式的变化>《中国图书评论》2015年第1期 p27-33、2015年1月

\*2-18.千野拓政<總體戰體制與中國現當代文化——從動員模式的變遷看二十世紀文化>《新地文學季刊 30號》(臺灣)p160-180、2014年12月

\*2-19.千野拓政「村上春樹と東アジア文化圏——その越境が意味するもの——」《WASEDA RILAS JOURNAL》第2号 p143-156、早稲田大学総合人文科学研究センター2014年10月

<http://www.waseda.jp/flas/rilas/assets/uploads/2014/10/57ab7e05f04bfa4b089ad4225a69aa0e.pdf>

\*2-20.千野拓政<东亚诸城市的亚文化与青少年的心理——动漫、轻小说、cosplay 以及村上春树>《东吴学术》2014年第4期 p41-62、2014年8月

\*2-21.千野拓政 Subculture in East Asia - An Overview《Japan SPOTLIGHT》September/October 2014、2014年7月(ウェブジャーナル)

\*2-22.藤本一勇「テクノロジーと来たるべきテキスト」、『思想』第108号(岩波書店)、262-278頁、2014年

\*2-23.藤本一勇《Textologie à venir de Derrida》, conférence dans le cadre du colloque du CIPh organisé par Jiang Dandan, Shanghai Jiao Tong University, septembre 2014.

\*2-24.鳥羽耕史「日本研究における国際性とは」早稲田大学国際日本文学・文化研究所(WIJLC) News Letter(7)p.4、2015年02月

\*2-25 鳥羽耕史監修・文「地図で見る サークル文化の勃興」週刊 新発見!日本の歴史(45)p.16-17、2014年05月

**[グループ3] 早稲田大学と東アジア —人文学の再生に向かって—**

2016年度

3-1.鈴木正信「婆罗门僧正菩提仙那传记的抄本和印本」『早稲田大学日本古典籍研究所年報』第10 2017年3月 138-144頁

\*3-2.真辺将之「日本近代史研究的动向与若干问题」『南开日本研究』2016年12月 185-197頁

3-3 渡邊義浩「『世説新語』の編纂意図」『東洋文化研究所紀要』170 2016年12月 1-40頁

\*3-4.十重田裕一「占領期メディア検閲と横光利一『旅愁』—ブラング文庫所蔵の校正からの視点」『文学』17-6 岩波書店 2016年11月 .276-290頁

3-5.鈴木正信「『海部氏系図』の成立背景—祝と始祖の記載をめぐる—」『日本歴史』822 2016年11月.1-16頁

3-6.鈴木正信「武蔵国高麗郡の建郡と大神朝臣狛麻呂」河野貴美子・王勇編『アジア遊学』199 勉誠出版 2016年8月 .67-79頁

3-7.渡邊義浩「『世説新語』劉孝標注における『史』の方法」『三国志研究』11 2016年9月 47-60頁

3-8.新川登亀男「宇陀地域の生活・生業と上宮王家—菟田諸石を手がかりとして—」河野貴美子・王勇編『アジア遊学』199 勉誠出版 2016年8月 .16-33頁

\*3-9.新川登亀男「2015年の歴史学界・日本古代史回顧と展望」『史学雑誌』125-5 2016年5月.37-40,61-63頁

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

<p>*3-10.鈴木正信「2015年の歴史学界・日本古代史回顧と展望」『史学雑誌』125-5 2016年5月43-45頁 2015年度</p> <p>*3-11.新川登亀男「漢字文化圏の成立－日本列島の立ち位置を考える準備」『EURO－NARASIA』3、2016年2月、31～39頁</p> <p>*3-12.渡邊義浩「中国の津田左右吉評価と日中の異別化」『津田左右吉とアジアの人文学』2、46～52頁</p> <p>*3-13.鶴見太郎「柳田民俗学と漢字」『国際日本学』13、2015年12月、91－99頁</p> <p>*3-14.鶴見太郎「郷土、地方からの視点形成」『二十世紀研究』16、2015年12月、17－38頁</p> <p>3-15.鈴木正信「海部氏系図」の基礎的研究」京丹後市教育委員会編『丹後・東海地方の文化方言等調査事業報告書』2015年5月、108～127頁、全256頁</p> <p>3-16.鈴木正信「Development and Dispersal Process of Ancient Japanese Clan」『WiAS Research Bulletin』8、2016年3月、65～78頁</p> <p>2014年度</p> <p>3-17.新川登亀男「法隆寺金堂釈迦三尊像光背銘の成り立ち」(『国立歴史民俗博物館研究報告』194、2015年3月、277～326頁</p> <p>3-18.十重田裕一「松本清張と新聞小説」(『松本清張研究』16、2015年3月、30～41頁</p> <p>3-19.真辺将之「近代日本における動物と人間—鯨・犬・馬を題材として—」『早稲田大学文学研究科紀要』60-4、2015年2月、19～36頁</p> <p>*3-20.真辺将之「東京専門学校における接続問題と大学昇格問題」(『近代日本研究』31、2015年2月、73～108頁</p> <p>3-21.鈴木正信「Methodology for Analyzing the Genealogy of Ancient Japanese Clans」『WiAS Research Bulletin』7、2015年3月、17～27頁</p> <p>3-22.渡邊義浩「『抱朴子』の歴史認識と王導の江東政策」『東洋文化研究所紀要』166、2014年12月、1～27頁</p> <p>*3-23.渡邊義浩「定州『論語』と『齊論』」(『東方学』128、2014年11月、56～72頁</p> <p>3-24.渡邊義浩「葛洪の文学論と『道』への指向」(『東方宗教』124、2014年11月、1～17頁</p> <p>3-25.鶴見太郎「対話する中野重治—柳田國男の影—」(『三田文学』夏号(118)、2014年7月、248～259頁</p> <p>3-26.鈴木正信「上野国美和神社の官社化と神階奉授」(『桐生史苑』53、2014年6月、3～23頁</p> <p>3-27.井上亘「禰軍墓誌『日本』考」(『東洋学報』95-4、2014年3月、1～28頁</p>
---

## <図書>

<p>[グループ1] 近代日本と東アジアに成立した人文学の検証</p> <p>2016年度</p> <p>*1-56.海老澤衷、近藤成一、甚野尚志編『朝河貫一と日欧中世史研究』、吉川弘文館、2017年3月、総頁264頁</p> <p>*1-57.根占献一『イタリヤルネサンスとアジア日本』、知泉書館、2017年2月、総頁245頁</p> <p>*1-58.梅森直之『初期社会主義の地形学(トポグラフィー)』、有志舎、2016年9月</p> <p>*1-59.小峯和明・金英順編訳、(分担執筆)河野貴美子、『海東高僧伝』、平凡社、2016年9月、分担執筆頁182～206頁、総頁392頁</p> <p>*1-60.河野貴美子・王勇編『アジア遊学199 衝突と融合の東アジア文化史』、勉誠出版、2016年8月、総頁199頁</p> <p>2015年度</p> <p>1-61.飯山知保『西隠文稿』からみた元明交替と北人官僚、『宋代史研究会研究報告集第10集 中国伝統社会への視角』、東京：汲古書院、2015年、91-124頁。</p> <p>1-62.河野貴美子「身延文庫蔵『弘決外典鈔』古鈔本初探」劉玉才・潘建国主編『日本古鈔本与五山版研究論叢』(北京大学出版社)、2015年、199 - 217頁。</p> <p>1-63.河野貴美子「『源氏物語』古注釈書にみる和漢の往還—『光源氏物語抄』所引漢籍考—」、小山利彦・河添房江・陣野英則編『王朝文学と東ユーラシア文化』(武蔵野書院)、2015年、105-131頁</p> <p>*1-64.河野貴美子、Wiebke DENECKE、新川登亀男、陣野英則(共編著)『日本「文」学史 第一冊「文」の環境—「文学」以前』、勉誠出版、2015年、総552頁。</p>
---

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

\*1-65.陣野英則「『文』の思想—和文に関する思想の萌芽をめぐって」,河野貴美子・Wiebke DENECKE・新川登亀男・陣野英則編『日本「文」学史 第一冊 「文」の環境—「文学」以前』,勉誠出版,2015年,pp.69-96.

1-66.陣野英則「『うつほ物語』と『源氏物語』の学問—物語は読者を学問へといざなうか—」,小山利彦・河添房江・陣野英則編『王朝文学と東ユーラシア文化』,武蔵野書院,2015年,83-104頁.

1-67.陣野英則『源氏物語論—女房・書かれた言葉・引用—』,勉誠出版,2016年,総528頁.

1-68.甚野尚志「12世紀ルネサンスとギリシア教父の影響—ポワティエのジルベールの神学とフゴー・エテリアヌス—」,甚野尚志・益田朋幸編『ヨーロッパ文化の再生と革新』,知泉書館,2016年,41-60頁

\*1-69.根占献「ヨーロッパ史から見たキリシタン史」,清水光明編『「近世化」論と日本—「東アジア」の捉え方をめぐって』,勉誠出版,2015年,pp.164-171.

\*1-70.根占献「再生と充溢としてのルネサンス観とその今日的課題—東西を結ぶルネサンス概念」,甚野尚志・益田朋幸編『ヨーロッパ文化の再生と革新』,知泉書館,2016年,61-85頁.

1-71.甚野尚志(草光俊雄との共編著),『ヨーロッパの歴史 I』放送大学教育振興会,2015年3月,262頁(総頁数)

1-72.柳澤明「『満文内国史院档』天聰五年部分及其資料価値」,白文煜主編『清前歴史与盛京文化:清前史研究中心成立暨紀念盛京定名380周年學術研討会』,遼寧民族出版社,2015年,上巻,pp.344-352.

2014年度

1-73.根占献(翻訳),E.H.ハービンソン『キリスト教的学識者—宗教改革時代を中心に—』,知泉書館,2015年2月,総頁231頁

1-74.井上文則(翻訳),A・スバルティアヌス他著『ローマ皇帝群像4』,京都大学学術出版会,2014年,総376頁

**[グループ2] ポストコロニアル時代の人文学、その再構築—21世紀の展開に向けて**

2016年度

\*2-26.鳥羽耕史,宇野田尚哉,川口隆行,坂口博,中谷いずみ,道場親信編『「サークルの時代」を読む—戦後文化運動研究への招待』,影書房,2016年12月

\*2-27.藤本一勇「サルトルとデリダの「視覚」」,澤田直・斎藤元紀・渡名喜庸哲・西山雄二編『終わりなきデリダ』法政大学出版局,2016年

\*2-28.Machiko Kusahara “Proto-Media Art: Revisiting Japanese Postwar Avant-garde Art”, pp.111-145 *A Companion to Digital Art*, ed. Christian Paul, WILEY Blackwell, 2016

2015年度

\*2-29.草原真知子,分担執筆「デジタルメディア時代のアート」(pp.213-231)石田栄敬/吉見俊哉/マイク・フェザーストン編『デジタル・スタディーズ第2巻「メディア表象」第8章』東京大学出版会,2015年9月

\*2-30. Machiko Kusahara “Bridging Art, Technology, and pop culture: some aspects of Japanese new media art today”, pp.66-79 *Routledge Hand book of New Media in Asia*, ed. Larissa Hjorth and Olivia Khoo, Routledge, 2015

2-31.草原真知子「アルスエレクトロニカ」日本バーチャルリアリティ学会「アルスエレクトロニカ小特集」誌20-4, pp.310-312, 2015年

2014年度

\*2-32.藤本一勇『現代思想』2015年2月臨時増刊号、総特集デリダ、2015年2月

\*2-33.草原真知子,分担執筆「メディアテクノロジーとしての幻燈」,土屋紳一/大久保遼/遠藤みゆき編『幻燈スライドの博物誌—プロジェクション・メディアの考古学』pp.24-29, 青弓社 2015年3月

**[グループ3] 早稲田大学と東アジア —人文学の再生に向かって—**

2016年度

\*3-28.海老澤表「鎌倉幕府成立と惟宗忠久—朝河貫一研究との関連」海老澤表・近藤成一・甚野尚志編『朝河貫一と日欧中世史研究』吉川弘文館 pp.129-169 2017年3月(グループ1,3の共同成果)129-169頁

\*3-29.私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の人文学と東アジア文化圏」第三研究グループ「早稲田大学と東アジア」編『津田左右吉とアジアの人文学』3号 早稲田大学 2017年3月 全129頁

\*3-30.植田康夫・紅野謙介・十重田裕一編『岩波茂雄文集』全三巻 岩波書店 2017年1~3月

3-31.Atuko Ueda. Richi Sakakibara. Michael Bourdabhs. Hirokazu Toeda. *Politics and Literature Debate: Postwar Japanese Criticism 1945-1952*, Lexington Books, 2017



法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

- \*3-32.真辺将之『大隈重信—民意と統治の相克』中央公論新社 2017年2月 全500頁
- 3-33.吉川真司監修・井上亘主編『古代日語—本通』南開大学出版社 2017年3月
- 3-34.劉雨珍監修・井上亘主編『現代日語—本通』南開大学出版社 2017年3月
- 3-35.鈴木正信『Clans and Genealogy in Ancient Japan』、Routledge(UK) 2017年2月 全296頁
- \*3-36.十重田裕一「占領期日本の検閲と川端康成の創作—『過去』『生命の樹』『舞姫』を中心に」紅野謙介・十重田裕一・和田博文・セシル坂井・マイケルポーダッシュ編『川端康成 21世紀再読—モダニズム、ジャポニスム、神話を越えて』笠間書院 2016年12月 193-203頁
- 3-37.鶴見太郎「中野重治と石堂清倫」『中野重治展 ふる里への思い、そして闘い』福井ふるさと文学館 2016年10月 55-59頁
- 3-38.渡邊義浩主編『全釋後漢書 別冊 後漢書研究便覧』汲古書院 2016年12月全276頁
- 3-39.渡邊義浩主編『全釋後漢書 列傳(八)』汲古書院 2016年9月 全820頁
- 3-40.鶴見太郎「日常からの挑戦」鶴見太郎編『日常からの挑戦』リーディングス・戦後日本の思想水脈第4巻 2016年9月 255-305頁
- 3-41.渡邊義浩『春秋左氏伝序』と『史』の宣揚『狩野直禎先生米寿記念三国志論集』三国志学会 2016年9月 243-267頁
- 3-42.十重田裕一「引き裂かれた『旅愁』の軌跡」横光利一『旅愁』上 岩波書店 2016年8月 561-579頁
- 3-43.鈴木正信『Clans and Religion in Ancient Japan』、Routledge(UK)、2016年5月全170頁
- 3-44.新川登亀男「橘諸兄」佐藤信編『古代の人物2 奈良の都』清文堂 2016年4月 155-184頁
- 2015年度**
- \*3-45.『津田左右吉とアジアの人文学』1・2号 2016年3月各全123・105頁
- \*3-46.井上亘『古代官僚制と遣唐使の時代』同成社、2016年3月、全353頁
- 3-47.渡邊義浩主編『全譯後漢書』志(四)天文汲古書院、2015年12月、140頁
- \*3-48.渡邊義浩編『中国史の時代区分の現在』汲古書院、2015年10月、462頁
- \*3-49.新川登亀男「文」と非「文」の世界」河野貴美子・Wiebke DENECKE・新川登亀男・陣野英則編『日本「文」学史 第一冊 「文」の環境—「文学」以前』勉誠出版、2015年9月、97~142頁
- \*3-50.渡邊義浩「古代中国における「文」の概念の展開」河野貴美子・Wiebke DENECKE・新川登亀男・陣野英則編『日本「文」学史 第一冊 「文」の環境—「文学」以前』勉誠出版、2015年9月、41~68頁
- 3-51.渡邊義浩主編『全譯後漢書』列傳(八)汲古書院、2015年8月、908頁
- \*3-52.渡邊義浩『「古典中国」における文学と儒学』汲古書院、2015年4月、全335頁
- 3-53.鈴木正信「円珍俗姓系図」の構造と原資料」加藤謙吉編『日本古代の王権と地方』大和書房、2015年4月、471~501頁
- 3-54.鶴見太郎「中野重治—反復する過去」栗原彬・吉見俊哉編『ひとびとの精神史 1 敗戦と占領—1940年代』岩波書店、232-255頁
- 2014年度**
- 3-55.新川登亀男『梁職貢図』と『梁書』諸夷伝の上奏文」(鈴木靖民・金子修一編『梁職貢図と東部ユーラシア世界』勉誠出版、2014年5月、166~197頁
- \*3-56.新川登亀男編『仏教文明の転回と表現』勉誠出版、2015年3月、全655頁
- \*3-57.新川登亀男「倭の入隋使(第一回遣隋使)と倭王の呼称」(新川登亀男編『仏教文明と世俗秩序』勉誠出版、2015年3月、117~150頁
- 3-58.海老澤衷・高橋敏子編『中世荘園の環境・構造と地域社会』勉誠出版、2014年6月、全376頁
- 3-59.海老澤衷「備中国新見荘の調査と『多層荘園記録システム』」(海老澤衷編『中世の荘園空間と現代』勉誠出版、2014年12月、163~180頁
- 3-60.渡邊義浩編『全譯後漢書 輿服志』汲古書院、2015年3月、全166頁
- 3-61.鶴見太郎「渋沢敬三による渋沢栄一の顕彰—方法的側面から—」(平井雄一郎・高田和友編『記憶と記録のなかの渋沢栄一』法政大学出版局、2014年8月、19~45頁
- 3-62.安藤宏・栗原敦・紅野謙介、十重田裕一、中島国彦、宗像和重編『近代文学草稿・原稿研究事典』八木書店、2015年2月、全403頁
- 3-63.十重田裕一「植民地を描いた小説と日本における二つの検閲—横光利一『上海』をめぐる言論統制と創作の葛藤」(紅野謙介他編『帝国の検閲—文化の統制と再生産』新曜社、2014年8月、241~251頁
- 3-64.鈴木正信『大神氏の研究』雄山閣、2014年5月、全298頁

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

\*3-65.井上亘『偽りの日本古代史』同成社、2014年12月、全159頁

<学会発表>

[グループ1] 近代日本と東アジアに成立した人文学の検証

2016年度

1-75.飯山知保、『西隠文稿』所見的元明交替与北人官僚，“十一十三世紀東亞史の新可能性” 首届中日青年学者宋遼夏金元史研討会，上海：復旦大学光華楼東輔楼 101 會議室，中華人民共和国(中国語)，2016年9月25日。

1-76.飯山知保，「明朝的華北征服与社会變動」，郎潤宋遼夏金元史青年學術沙龍第七場，北京：北京大学中国古代史研究中心報告厅，中華人民共和国(中国語)，2016年9月24日。

1-77.飯山知保，「石刻史料与金元華北地方社会」，RUC 歴史考古沙龍 8，北京：中国人民大学博物館 202，中華人民共和国(中国語)，2016年9月23日。

1-78.飯山知保，「華北社会歴史的蒙元統治與其影響」，“歷史學研究的問題與路徑”學術研討會，廈門：天鵝大酒店 2 樓會議室，中華人民共和国(中国語)，2016年11月6日。

1-79.飯山知保，「碑刻史料与 12 至 16 世紀華北社会史研究」，招待講演，広州：暨南大学文学院 五楼古籍所會議室，中華人民共和国(中国語)，2016年4月23日。

1-80.飯山知保，“Actually, We Are Mongols! : Ancestral Narratives and Identity Shifts Derived from Yuan Steles in North China, ca.1400 to Today,” Invited Talk, Lecture Room 108, Joukowsky Institute for Archaeology and the Ancient World, Brown University, US(英語)，March 10, 2017.

1-81.飯山知保，“How Did the Mongol Rule End?: The Life of Song Na (1311-1390) during the Yuan-Ming Transition in North China,” “New Directions in Central and Inner Asian History” Workshop, room S354, CGIS, Harvard University, US(英語)，March 7, 2017.

1-82.飯山知保，“An Introduction to Epigraphic Field Research in Rural North China,” Invited talk at the Council on East Asian Studies at Yale University, Room 301, Rosenkranz Hall, Yale University, US(英語)，March 3, 2017.

1-83.飯山知保，「蒙元時期碑刻与明代華北社会研究」，「知識的構成與實踐」論壇，中国宋史研究会第十七届年会，広州：中山大学嶺南堂黃炳礼室，中華人民共和国(中国語)，2016年8月21日。

1-84.飯山知保，“Engraving Genealogy: The Emergence of New Epigraphic Practices and Lineage Formation in Yuan-Ming-Qing North China,” in Panel “New Traditions in Local Settings in Post-Mongol China: The Adaptation and Localization of Ritual Practices and Religious Beliefs,” AAS-in-Asia 2016, room SK 104, Shikokan, Doshisha University, Kyoto, Japan (英語)，June 25, 2016.

1-85.河野貴美子，清原宣賢所撰“抄物”与明代書籍，“明代的書籍与文学”国際學術研討会(寧波市天一閣博物館、復旦大学古籍整理研究所主催)、招待有り、2016年12月4日、中国寧波市天一閣。

1-86.河野貴美子，《北京人文科学研究所蔵書目録》中的「鈔本」研究初探、日本漢文古写本の整理研究与中日學術交流史第二届写本論壇、2016年11月4日、中国・小湯山国際商務官員研修中心。

1-87.河野貴美子，Legend, Lexicon, Commentary: The Lotus Sutra in Japanese Letters、AJLS 2016(Association of Japanese Literary Studies Conference: WORD/IMAGE/JAPAN) 2016年10月29日、Pennsylvania State University's Department of Asian Studies, the Center for Global Studies, the Department of Comparative Literature, and the North-east Asia Council.

1-88.河野貴美子，中国古文献在日本的傳承、東北亞走廊研究院學術講座、招待有り(講演)、2016年9月10日、渤海大学東北亞走廊研究院

1-89.河野貴美子，東アジアにおける漢籍の傳播と共同体の構築——日本と渤海の外交における文事を例として、渤海大学「多元視覚下亞洲共同体意識の発現与共同体的建構」系列講（一般財団法人ワンアジア財団プロジェクト）、招待有り(講演)、2016年9月9日、渤海大学。

1-90.河野貴美子，Fiction and Truth: The Challenge to Kukai's Sango Shiiki、AAS-in-ASIA Conference, ASIA IN MOTION: HORIZONS OF HOPE, 2016 Kyoto(Association for Asian Studies, Inc. and Doshisha University)、2016年6月26日、同志社大学。

1-91.河野貴美子，渤海との外交における文事と白居易、平成二十八年度中古文学会春季大会 大会企画シンポジウム《平安朝文学と白氏文集》、2016年5月21日、早稲田大学。

\*1-92.橋本一徑，「ロンドンの足跡、東京の指紋——南方熊楠とヘンリー・フォールズ」、特別企画展講演会

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

「ロンドン時代の南方熊楠」、南方熊楠顕彰館,2016年05月03日

1-93.河野貴美子,The Formation of a Sino-Japanese Canon: Wakan Roeishu and its Legacy、Loose Canons II: Value and Valuation in Japanese Engagements with Chinese Writing、招待有り,2016年4月30日、USC Shinso Ito Center for Japanese Religions and Culture。

\*1-94.甚野尚志, The Doctrine of Tyrannicide of Juan de Mariana and its Medieval Origins,

“Medieval and Early Modern Religious Histories: Perspectives from Europe and Japan,Third Meeting,Religion and violence”, 2016年11月25-26日, ブルーノ・ケスラー財団イタリア・ドイツ歴史研究所(トレント、イタリア)。

1-95.柳澤明,「17～19世紀の露清外交と媒介言語」人間文化研究機構「北東アジア地域研究推進事業」島根県立大学 NEAR センター拠点プロジェクト「北東アジアにおける近代的空間の形成とその影響」第1回国際シンポジウム2016「北東アジア: 胚胎期の諸相」,2016年11月20日,島根県立大学

1-96.柳澤明,“The three Kalmyk embassies to Tibet in 18th century and Qing’s reaction to them”The Nature of Inner- and East Asian Politics and Inter-polity Relations in the 18th and 19th centuries, focusing on Qing -Tibetan-Mongol relations; Perspectives from Contemporary Sources. Seminar at the Institute of Central Eurasian History and Culture, Waseda University, co-hosted by Kredha. 6 March 2017, at Waseda University

\*1-97.柳澤明,「巴爾虎人的遷徙与姓氏」中華人民共和国国家外国專家局重点引智項目“17-19世紀黒龍江流域民族文化変遷研究”外国專家學術講座,2016年10月30日,大連民族大学

1-98.冬木ひろみ,招待発表「シェイクスピアの視覚的表象をめぐって」(シンポジウム「多面体としてのシェイクスピア」),日本シェイクスピア学会北海道支部第61会大会(於北海道教育大学大学旭川校),2016年10月29日

1-99.橋本一径,«“Debunking”, ou le nouvel enjeu de la retouche photographique à l’ère numérique »,国際ワークショップ「真実性の彼岸」: 写真的経験再考,早稲田大学,2016年10月25日

1-100.飯山知保,「郊祀草恩所代表的金代“皇帝”形象之一端」,《事林広記》与宋金元明社会研究”課題組學術研討会, 広州: 暨南大学文学院四樓歴史系会議室, 中華人民共和国(中国語), 2016年4月24日

\*1-101.橋本一径, “An Unfaithful Trace: A History of “Life-size” Photography,” フンボルトコレク東京, 東京大学,2016年04月10日

2015年度

1-102.甚野尚志, “Political Metaphor and Imitation of Nature in the Medieval Mirrors for Princes”, ,Medieval and Early Modern Religious Histories: Perspectives from Europe and Japan,Second Meeting, 2015年12月11-12日,ブルーノ・ケスラー財団イタリア・ドイツ歴史研究所(トレント、イタリア)

2014年度

1-103.甚野尚志, “Pentarchia as the five senses of the human body-The idea of Church by Eastern Orthodox intellectuals and its relation to the organic concept of society in medieval western Europe”,Medieval and Early Modern Religious Histories: Perspectives from Europe and Japan,First Meeting, 2014年10月17-18日,ブルーノ・ケスラー財団イタリア・ドイツ歴史研究所(トレント、イタリア)

[グループ2] ポストコロニアル時代の人文学、その再構築—21世紀の展開に向けて

2016年度

\*2-34.千野拓政・学術報告《东亚都市文化的转折与日本青年文化》世界城市文化上海论坛, 上海社会科学院 2016年10月20日

\*2-35.千野拓政・学術報告《从三个日记谈中国现代文学的诞生》東アジア人文学フォーラム、清華大学 2016年10月15日

\*2-36.千野拓政・学術報告《三个日记与中国和日本的现代文学诞生》现当代中国文学语言问题国际研讨会, 复旦大学 2016年4月30日

\*2-37.藤本一勇・学術報告“The problem of vision in the philosophy of Nishida Kitaro — with regard to the deconstruction of Jacques Derrida.”東アジア人文学フォーラム(清華大学)2016年10月15日

\*2-38.松永美穂、学術報告「メディア対作家? エルフリーデ・イェリネクの場合」(「信頼社会」研究会) (2016年10月15日)

\*2-39.草原真知子、講演 Where Art, Technology, and Pop Culture Meet - Media Art Environment in Japan for Young Artists 2016年9月8日 Linz Art University

2015年度

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

<p>2-40.草原真知子、パネリスト Women in Computer Graphics (日本のCGにおける女性の地位について) 於 ACM SIGGRAPH (Los Angeles)、2015 年 8 月 11 日</p> <p>*2-41.草原真知子、講演「日本のメディアアート」Danube University (Krems, Austria)2015 年 2015 年 9 月 1 日</p> <p>*2-42.草原真知子、講演「写し絵から幻燈へ」Danube University (Krems, Austria)2015 年 2015 年 9 月 2 日</p> <p>*2-43.鳥羽耕史、講演「坂本九とアメリカ経由のナショナリズム—「脱」政治化する大衆文化」2015 年 6 月 5 日 UCLA</p> <p>*2-44.松永美穂、学術報告 Das eingeklammerte Ich: über das lyrische Ich in Yoko Tawadas japanischem Gedichtband “Die Leiche des Regenschirms und meine Frau” (学会名 Theorie des Subjektes und die Gegenwartsdichtung in Russland und Deutschland ロシアとドイツの現代詩における主体理論)トリーア大学 2015 年 11 月 4 日</p> <p>*2-45.千野拓政、講演「我們跑到哪裏去?—東亞諸城市的亞文化與青少年的心理: 動漫, 輕小說, cosplay 以及村上春樹」(台灣大學)2016 年3月 25 日</p> <p>*2-46.千野拓政、基調報告「東亜現代文化的転折与日本当代青年文化」 「“東亜青年文化: 現状与未来” 国際学述研討会」(於上海大学)2015 年 10 月 31 日</p> <p>2-47.千野拓政、基調報告「中国詩歌的可能性——從楊鍵說開去」 「楊鍵作品国際学述研討会」(常熟・蘇州沙家浜国際写作中心)2015 年 9 月 18 日</p> <p>2-48.千野拓政、学術報告「如何建設全球化時代的中文系——早稲田大学中文系教研国際化方案」 「“全球化与中文学科建設的新方向” 国際学術研討会」(清華大学)2015 年 5 月 16 日</p> <p>*2-49.藤本一勇、学術報告 “The Condition of Possibility for Japanese subculture.” 第 6 回東アジア人文学フォーラム国立台湾大学 2015 年 12 月</p> <p>2014 年度</p> <p>*2-50.千野拓政、講演《从动员的模式看东亚诸城市的亚文化》(南京师范大学日文系)2014 年 11 月 4 日</p> <p>*2-51.千野拓政、講演《东亚诸城市的亚文化与青少年的心理》(南京师范大学中文系)2014 年 11 月 4 日</p> <p>*2-52.千野拓政、学術報告《总体战与中国现当代文化——从动员的模式刊 20 世纪文化》(《第 3 届世界华文文学高峰论坛》南京大学)2014 年 11 月 2 日</p> <p>2-53.千野拓政、講演《总体战体制文化与现代文学的起源》(上海大学文化研究系)2014 年 9 月 12 日</p> <p>*2-54.千野拓政、講演《东亚诸城市的青年文化与动员方式的变化》(上海大学文化研究系)2014 年 9 月 10 日</p> <p>*2-55.千野拓政、講演《从离岛问题看文化研究》(上海大学文化研究系)2014 年 9 月 9 日</p> <p>*2-56.千野拓政、講演《村上春树与现代文学的转折》(南开大学中文系)2014 年 6 月 25 日</p> <p>*2-57.藤本一勇、学術報告 “Toward a new Ethics of Technology.” 第 5 回東アジア人文学フォーラム(漢陽大学)2014 年 11 月</p> <p>*2-58.藤本一勇、学術報告 “Deconstruction of <i>tekhnè</i>,” Des journées d’ études : « The tenth anniversary of Jacques Derrida »,早稲田大学 2014 年 11 月 21-23 日</p> <p>*2-59.鳥羽耕史、学術報告「木版画・連環画とサークル運動」第 8 回戦後文化運動合同研究会 2014 年 8 月 31 日北海道大学</p> <p>*2-60.鳥羽耕史、講演「1950 年代から考える文学研究の未来——サークル詩と安部公房を視座として未来が呼びかける知の地平」2014 年 5 月 28 日 UCLA</p> <p>*2-61.鳥羽耕史、講演「記録が現実をつくる——ダムをめぐる記録映画とルポルタージュ」パネルトーク: 民衆的(リアル) 美術×漫画×文学×思想 2014 年 5 月 24 日吉祥寺美術館</p>
--

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等  
ホームページで公開している場合には、URL を記載してください。

<既に実施しているもの>

[グループ 1] 近代日本と東アジアに成立した人文学の検証

2016 年度

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

<p>*1-104.国際シンポジウム「グローバル時代のアートと翻訳」(2017年3月27日)早稲田大学戸山キャンパス 33号館3階第1会議室</p> <p>*1-105.ワークショップ“New Perspectives on Studies in the Humanities”Discussion for the possibility of research collaboration of the Humanities between Waseda University and Peking University (参加者: 飯山知保、河野貴美子、根占献一、甚野尚志)(2017年1月8日)北京、北京大学</p> <p>*1-106.国際シンポジウム「アジアのシェイクスピア—シェイクスピア受容の多様性—」(2017年1月7日)早稲田大学大隈小講堂</p> <p>*1-107.国際シンポジウム「中世・ルネサンス期のイタリア政治思想への新しい視角」(2016年9月17日) <a href="http://iemrs.blog111.fc2.com/blog-entry-99.html">http://iemrs.blog111.fc2.com/blog-entry-99.html</a> 上に報告要旨を掲載</p> <p>*1-108.共催シンポジウム「モンゴル帝国継承国家論の再検討:「モンゴル時代」後のモンゴリア」(2016年7月9日)</p> <p>*1-109.国際シンポジウム「記憶と文化」(2016年7月18,19日)早稲田大学戸山キャンパス 33号館3階第1会議室 2015年度</p> <p>*1-110.共催ワークショップ:「日本『文』学史」第2回ワークショップ「『文』と人びと——継承と断絶」(2016年3月27日)早稲田大学戸山キャンパス 33号館3階第1会議室</p> <p>*1-111.共催シンポジウム「通商・巡礼・亡命:17世紀~20世紀初頭の中央ユーラシアにおける超境界活動」(2016年3月12日)早稲田大学戸山キャンパス 36号館581教室 <a href="http://eurasiaken.sakura.ne.jp">http://eurasiaken.sakura.ne.jp</a> 上の「研究会・講演会」&gt;「2015年度活動報告」に掲載</p> <p>*1-112.国際シンポジウム「美術批評とアジア——同時代性と植民地性」(2016年2月6日)早稲田大学戸山キャンパス 32号館1階127教室</p> <p>*1-113.ワークショップ “New Perspectives on Studies in the Humanities” International Workshop Organized by Waseda University and National Taiwan University (参加者: 飯山知保、河野貴美子、根占献一、甚野尚志)(2016年1月11日)台北, 国立台湾大学</p> <p>*1-114.共催シンポジウム「世界史のなかのユダヤ人」(2015年10月3日)早稲田大学戸山キャンパス 33号館3階第1会議室 2014年度</p> <p>*1-115.シンポジウム「近世のキリスト教布教と東アジア」(2015年3月4日)早稲田大学戸山キャンパス 33号館3階第1会議室</p> <p>*1-116.Prof. Bee Yun(成均館大学、韓国)講演会(2015年3月3日)早稲田大学戸山キャンパス 33号館16階第10会議室 “Global, Regional, Intercultural: Emergence of New Cultural Geographical Conceptions and the Medieval Studies in Asia”</p> <p>*1-117.Prof. Chen Hui Hung(台湾大学、台湾)講演会(2015年3月5日)早稲田大学戸山キャンパス 33号館16階第10会議室 “Rethinking Chinese Madonna Images and Cult in the Seventeenth Century”</p> <p>*1-118.キックオフ・シンポジウム「新しい人文学の地平を求めて—ヨーロッパの学知と東アジアの人文学—」(2014年12月6日)早稲田大学小野記念講堂</p> <p>*1-119.シンポジウム「東アジアから1968年をみつめなおす」 記念講演:“1968 and the Contingency of Power.”by Kristin ROSS (NYU) (2014年11月8日)早稲田大学 国際会議場 井深大記念ホール</p> <p>*1-120.ワークショップ Marx, History, and Time: Some Reflections(2014年11月10日)早稲田大学 戸山キャンパス 33号館3階 第1会議室</p> <p>*1-121.ワークショップ The Political Imaginary of the Paris Commune: Notes on the Cellular Regime of Nationality.(2014年11月11日)早稲田大学 戸山キャンパス 33号館3階 第1会議室 [グループ2] ポストコロニアル時代の人文学、その再構築—21世紀の展開に向けて 2016年度</p> <p>*2-62.国際シンポジウム「新世紀:越境する東アジアの文化を問う—カルチュラルスタディーズ・文学・サブカルチャー・そして人々の心—」(第1会議室)(2017年3月18日、19日) <a href="https://www.waseda.jp/flas/rilas/news/2017/03/09/2835/">https://www.waseda.jp/flas/rilas/news/2017/03/09/2835/</a></p> <p>*2-63.講演会「フランス語漫画におけるサムライ」(早稲田大学戸山キャンパス 33号館第1会議室)フレデリック・トゥルモンド(出版者)、ロイック・ロキャテリ(漫画家)(2016年10月29日) <a href="http://flas.waseda.jp/french/actualites/evenements/2016/10/17/1425">http://flas.waseda.jp/french/actualites/evenements/2016/10/17/1425</a></p> <p>*2-64.大学院生の国際シンポジウム“中国与日本:当代文化的跨境与交流”学术工作坊(於南開大学)を</p>
--

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

南開大学・上海大学と共同開催。2016年11月2～3日

\*2-65.東アジア人文フォーラム(台湾:清華大学)に藤本・千野が参加、学術報告を行った(2016年10月)

\*2-66.多和田葉子・高瀬アキ、パフォーマンス「北斎さいさい」(小野講堂)2016年11月14日

\*2-67.多和田葉子・高瀬アキ、ワークショップ「言葉と音楽 Vol. 7」(小野講堂)2016年11月15日

2015年度

\*2-68.国際シンポジウム「1980年代サブカルチャー再訪—アジアを貫く若者文化の起源」(2016年1月17日)小野記念講堂

\*2-69.『戦後を中心に、日本・ロシア・ドイツの現代叙情詩に関するシンポジウム』をトリーア大学と共同で連続開催(2015年10～11月)神戸大学、トリーア大学、早稲田大学

\*2-70.東アジア人文フォーラム(台湾:国立台湾大学)に藤本が参加、学術報告を行った(2015年11月)

\*2-71.貝澤哉、東浩紀、角田光代、川上未映子、藤井光、ヤマザキマリ、堀江敏幸、市川真人「早稲田文学公開編集委員会 第十次「早稲田文学」季刊化記念講演会」(主催:文学学術院、文芸・ジャーナリズム論系、「早稲田文学」/後援:筑摩書房/早稲田大学戸山キャンパス、38号館AV教室)2015年04月17日

\*2-72.“中国和日本:当代文化的跨境与交流”中日青年学人对谈会“を上海大学当代文化研究中心と共同開催。2015年11月2-3日(於上海大学)

\*2-73.多和田葉子・高瀬アキ、パフォーマンス「猫の手も借りたい音楽」(小野講堂)2015年11月11日

\*2-74.多和田葉子・高瀬アキ、ワークショップ「言葉と音楽Vol. 6」(小野講堂)2015年11月12日

2014年度

\*2-75.国際学術フォーラム「中日青年学人对谈会“変革時代の技術、媒介と生活様式”」を、上海大学と共同開催。2014年9月9日

\*2-76. シンポジウム「ナムジュン・パイクとK-456—阿部修也さんとロボット、アート、文化について語る」の共同開催。(12月19日、早稲田大学)

\*2-77.東アジア人文学フォーラム(韓国:漢陽大学)に藤本、李が参加し、藤本が学術報告を行った。

\*2-78.「デリダ没後10年記念シンポジウム」2014年11月22-24日(小野記念講堂)

\*2-79.多和田葉子・高瀬アキ、パフォーマンス「白拍子・黒拍子」(小野講堂)2014年11月12日

\*2-80. 多和田葉子・高瀬アキ、ワークショップ「言葉と音楽 Vol. 5」(小野講堂)2014年11月13日

【グループ3】早稲田大学と東アジア—人文学の再生に向かって—

2016年度

\*3-66.佐竹康扶(研究協力者)「明治期—昭和初期の『早稲田学報』にみる早稲田大学と東アジア」『津田左右吉とアジアの人文学』3号 早稲田大学 2017年3月 115-129頁

\*3-67.江永博・趙国(研究協力者)「早稲田大学『校友会会員名簿』留学生関連情報データベース化作業中間報告」『津田左右吉とアジアの人文学』3号 早稲田大学 2017年3月 3-106頁

\*3-68.江永博「台湾における戦前『留学生』の史料調査メモ」『津田左右吉とアジアの人文学』3号 早稲田大学 2017年3月 107-114頁

\*3-69.渡邊義浩「中国古典と津田左右吉」国際シンポジウム「人文学の再建とテキストの読み方—津田左右吉をめぐって—」2017年1月14日 早稲田大学

<https://www.waseda.jp/flas/rilas/news/2017/03/02/2782/>

\*3-70.鶴見太郎「柳田民俗学と津田左右吉」国際シンポジウム「人文学の再建とテキストの読み方—津田左右吉をめぐって—」2017年1月14日 早稲田大学

<https://www.waseda.jp/flas/rilas/news/2017/03/02/2782/>

\*3-71.十重田裕一「小川未明の早稲田大学時代」シンポジウム「小川未明と早稲田の児童文学」小川未明文学賞25周年記念フォーラム 2016年10月10日 早稲田大学

\*3-72.十重田裕一・塩野加織・尾崎名津子「岩波茂雄と津田左右吉」国際シンポジウム「人文学の再建とテキストの読み方—津田左右吉をめぐって—」2017年1月14日 早稲田大学

<https://www.waseda.jp/flas/rilas/news/2017/03/02/2782/>

\*3-73.真辺将之「日本近代史研究の動向といくつかの問題」中国・南開大学日本研究院 2016年7月7日

\*3-74.ディヴィッド・ルーリー「津田左右吉と神話学—『ヨミの国の物語』を中心に—」国際シンポジウム「人文学の再建とテキストの読み方—津田左右吉をめぐって—」2017年1月14日 早稲田大学

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

<https://www.waseda.jp/flas/rilas/news/2017/03/02/2782/>

\*3-75.新川登亀男「日本古代史研究の展望」中国・南開大学日本研究院 2016年7月7日

2015年度

\*3-76.日本思想史学会大会(早稲田大学、2015年10月18日)特別パネルセッション「津田左右吉と早稲田大学—記憶と記録—」開催。

\*3-77.シンポジウム「朝河貫一と日本中世史研究の現在」(2015年12月5日)開催(早稲田大学)。

\*3-78.「津田左右吉の学問と歴史認識」(2015年10月24日、早稲田大学)、「津田左右吉と東アジア」(2015年10月26日)早稲田大学にて新川登亀男が講演。

2014年度

\*3-79.日韓中共同国際シンポジウム「仏教文明の拡大と転回」を早稲田大学にて開催(2014年10月24・25)基調講演「日本仏教以前の仏教」(新川登亀男)

\*3-80.第6回東アジア人文学フォーラム「21世紀と人文学」(韓国漢陽大学校)(2014年11月1日)「日本における中国史の時代区分論争と『古典中国』」を報告(渡邊 義浩)。

\*3-81.特別研究集会「津田左右吉の人文学と中国」を早稲田大学で開催(2015年1月17日)劉岳兵(南開大学)、苗壯(遼寧大学)、井上亘(北京大学)、そして渡邊義浩が報告。

#### ■ <これから実施する予定のもの>

・「日本『文』学史」第3回ワークショップ 日時:2017年7月

・国際シンポジウム「文学研究の未来に向けて(中国編)」 日時 2017年7月21日

・ワークショップ「人文学の「他者」としてのカニバリズム」 日時:2017年10月

・第3回青年研究者国際シンポジウム(三校工作坊) 日時:2017年11月2~3日

・国際シンポジウム「東アジアの文学・文化研究の国際化とナショナリズムの陥穽」日時:2017年12月3日

・「東アジア人文学フォーラム in 早稲田大学」 日時:2017年12月16日~17日

・シンポジウム「ユーラシア史の再検討:「東洋史」、「西洋史」を超えて」 日時:2018年1月

・国際シンポジウム「人文知の明日を見つめて」 日時:2018年1月13日

・朝河貫一没後 70年記念シンポジウム「朝河貫一と日本・アメリカ・ヨーロッパの人文学の邂逅」 日時:2018年7月

#### 14 その他の研究成果等

「12 研究発表の状況」で記述した論文、学会発表等以外の研究成果及び企業との連携実績があれば具体的に記入してください。また、上記11(4)に記載した研究成果に対応するものには\*を付してください。

【グループ1】特になし

【グループ2】ポストコロナル時代の人文学、その再構築—21世紀の展開に向けて

2016年度

\*2-79.千野拓政、インタビュー『中国の「80後」作家が日本で人気がない理由』《人民网》(日文版)2016年11月21日

\*2-80.千野拓政、インタビュー《千野拓政:中国的 80 后作家日本为啥没人气?》(沈河西整理)《澎湃新聞》web版 2016年11月8日

2015年度

\*2-81.草原真知子、オピニオン「写し絵と幻燈」WASEDA ONLINE、2015年6月1日

\*2-82.草原真知子、早稲田大学演劇博物館主催「幻燈」展企画アドバイザー、展示資料提供、2015年

\*2-83.パネルディスカッション「新たな村上春樹」モデレーター:松家仁之(慶応義塾大学)、松永です美穂(早稲田大学文学学術院)、パネリスト 千野拓政、閻連科、施小焯、加藤典洋、尹相仁、マイケル・エメリック、WASEDA RILAS JOURNAL No.2、p195-206

<http://www.waseda.jp/flas/rilas/assets/uploads/2014/10/eac27acdda54ff23141ada52f3cc073e.pdf>

2014年度

【グループ3】特になし

#### 15 「選定時」に付された留意事項とそれへの対応

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

<「選定時」に付された留意事項>

<「選定時」に付された留意事項への対応>



法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

## 16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他(科研費)	
平成26年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	67,659	9,449	9,449		965	96	47,700 民間財団助成金等
平成27年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	60,939	7,499	7,499		2,136		43,805 受託研究等
平成28年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	62,044	7,499	7,499		1,090		45,956 JSPS事業等
総額	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	0	0	0	0	0	0	0
	研究費	190,642	24,447	24,447	0	4,191	96	137,461
総計	190,642	24,447	24,447	0	4,191	96	137,461	

## 17 施設・装置・設備の整備状況(私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
33号館	2014年	13,407	119	645	2,393,890	0	なし
39号館	1992年	4,045	84	645	808,229	0	なし

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

0 m<sup>2</sup>

法人番号	131100
プロジェクト番号	S1491011

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)

(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h			
				h			
				h			
				h			
(研究設備)				h			
				h			
				h			
(情報処理関係設備)				h			
				h			
				h			
				h			

## 18 研究費の支出状況

(千円)

年度	平成 26 年度		
小科目	支出額	積算内訳	
		主な用途	金額
<b>教育研究経費支出</b>			
消耗品費	13,450	スキャナー、ハードディスク、文具等	13,450
光熱水費			
通信運搬費	67	郵送代	67
印刷製本費	694	シンポジウムポスター・チラシ、レジュメ等印刷	694
旅費交通費	28,649	招聘旅費、海外出張	28,649
報酬・委託料	5,975	講演謝金、通訳謝金等	5,975
用品費、雑費等	12,765	PC、図書、映像記録撮影機材・メディア費等	12,765
計	61,600		
<b>アルバイト関係支出</b>			
人件費支出 (兼務職員)	1,063	研究補助者	1,063
教育研究経費支出			
計	1,063		
<b>設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)</b>			
教育研究用機器備品	4,994	国際会議室テレビ会議システム	4,994
図書			
計	4,994		
<b>研究スタッフ関係支出</b>			
リサーチ・アシスタント			
ポスト・ドクター			
研究支援推進経費			
計	0		

		法人番号		131100	
		プロジェクト番号		S1491011	
年 度	平成 27 年度				
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳			
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容	
教 育 研 究 経 費 支 出					
消 耗 品 費	11,762	スキャナ、ドッチファイル、USBメモリー等	11,762	スキャナ、ドッチファイル、USBメモリー等	
光 熱 水 費					
通 信 運 搬 費	5	書籍発送代	5	書籍発送代	
印 刷 製 本 費	1,264	シンポジウムチラシ、報告集印刷代	1,264	シンポジウムチラシ、報告集印刷代	
旅 費 交 通 費	28,522	研究出張、招聘旅費	28,522	研究出張、招聘旅費	
報 酬 ・ 委 託 料	3,724	シンポジウム同時通訳業務、講演謝金等	3,724	シンポジウム同時通訳業務、講演謝金等	
用 品 費 ・ 雑 費 等	12,808	PC、図書等	12,808	PC、図書等	
計	58,085				
ア ル バ イ ト 関 係 支 出					
人 件 費 支 出 (兼務職員)	2,083	研究補助者	2,083	時給1200～3000円、年間時間数 1000時間	
教育研究経費支出 計	2,083				
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)					
教育研究用機器備品 図 書	769	A3スキャナ	769	A3スキャナ	
計	769				
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出					
リサーチ・アシスタント ポスト・ドクター 研究支援推進経費 計	0				

		法人番号		131100	
		プロジェクト番号		S1491011	
年 度	平成 28 年度				
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳			
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容	
教 育 研 究 経 費 支 出					
消 耗 品 費	13,655	研究用文房具等	13,655	研究用文房具・メモリーカード・デジタルカメラ等	
光 熱 水 費					
通 信 運 搬 費	73	研究出張(海外)WIFI通信料等	73	研究出張(海外)WIFI通信料等	
印 刷 製 本 費	1,581	資料複写代等	1,581	資料複写代・シンポジウム配付用印刷代・チラシ印刷代等	
旅 費 交 通 費	22,661	研究出張、招聘旅費等	22,661	研究出張、招聘旅費等	
報 酬 ・ 委 託 料	6,664	シンポジウム招聘者講演謝金等	6,664	シンポジウム招聘者講演謝金・翻訳謝金等	
用 品 費 ・ 雑 費 等	15,229	PC、サーバードメイン利用料等	15,229	謝金海外送金費用、PC、サーバードメイン利用料等	
計	59,863				
ア ル バ イ ト 関 係 支 出					
人 件 費 支 出 (兼務職員)	2,103	研究補助者	2,103	時給1500～3000円、年間時間数1086時間等	
教育研究経費支出 計	2,103				
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)					
教育研究用機器備品 図 書	0				
計	0				
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出					
リサーチ・アシスタント ポスト・ドクター 研究支援推進経費 計	0				